

議会だより

第 67 号

2022. 2 月

発行 / 八幡浜市議会

～令和3年10月・11月臨時会・12月定例会号～



八幡浜庁舎前みかん摘み (八幡浜幼稚園)



議案等別表決一覧表	P 2
市の考えを問う(8議員が一般質問)	P 3
3 常任委員長報告	P 12

一般質問

8人が市政をただす！



今定例会では、8人の議員が一般質問に立ち、市長はじめ関係理事者の考え方をただしました。

掲載は質問順で、質問及び理事者答弁は質問者本人が要約したものです。
なお、一般質問の詳細につきましては、会議録に掲載しています。

*会議録は、市議会ホームページ上 (<http://www.city.yawatahama.ehime.jp/sigikai/>)、議会事務局、市立図書館、中央公民館でご覧いただけます。

質問者（質問順）	質問項目	ページ
攝津真澄	<ol style="list-style-type: none"> 1. 全国学力・学習状況調査からみえる学校教育について 2. 八幡浜市の文化継承の推進と、今後の取り組み及び支援について 	4
井上剛	<ol style="list-style-type: none"> 1. 八幡浜市における森林環境譲与税の使途、現況について 2. 新規就業者支援の環境整備について 	5
佐々木加代子	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子育て支援の取り組みについて 	6
平野良哉	<ol style="list-style-type: none"> 1. 市立八幡浜総合病院について 2. ふるさと納税について 	7
宮本明裕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 市長の「わくわくする八幡浜」の実現に向けての公約について 	8
新宮康史	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「西予市が八幡浜地区施設事務組合から脱退する意向を示した件」について 2. 福祉（虐待、子育て支援、いじめ等）全般について 	9
西山一規	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本で3台となったミュージックサイレンについて 	10
遠藤綾	<ol style="list-style-type: none"> 1. 伊方原子力発電所3号機再稼働について 2. 当市における「情報」の取り扱いについて 3. 就学援助制度について 	11

攝津眞澄議員



「八幡浜てやてや音頭」の継承を！

産業建設部長

市からも、夏祭りの一本化の中に組み入れる等、協賛会に市民の声を伝える



全国学力・学習状況調査を受けて

問 八幡浜市内小・中学校の近年の推移、また各教科の調査結果と分析をお聞きする。

答 ここ4年間、全て全国平均を上回っており、教員が授業改善の為に校内研修の充実を図ってきた成果と言える。小・中学校共に基礎、基本は定着しているが、必要な情報を読み取りながら自分なりの考えを書く問題に課題が見られる。これらの結果・改善策は全ての保護者にお知らせしている。

問 小学校では基礎的な学力だけでなく規則的な生活・学習習慣を身につける事が大切である。当市において、朝食を毎日とる児童生徒の割合が低下しているが、その割合と理由、及び改善方法をお聞きする。

答 朝食をとらない生徒は、中学校で約5%、小学校では約1%と把握している。理由は、保護者に朝食を作ってもらえない・登校ぎりぎりまで寝ているため食べる時間がとれない・食欲がない、の3点が挙げられる。引き続き子どもたちに規則的な生活習慣や、朝食、睡眠の大切さを伝え、改善するよう指導を継続していきたい。

問 コロナでおうち時間が増えた事により、メディアの接触時間が増え、学習時間の減少や体力低下が心配されるが、八幡浜市の子どもたちは如何か。

答 各学校長に向けたアンケートでは、ゲーム依存と体力の低下・運動不足、また養護教諭からは視力の低下が挙げられた。コロナ禍に特化した設問では、子どもたちは休業期間中に勉強についての不安を感じながらも、計画的に学習した、規則正しい生活を送ったと回答している事から、今回の良好な学力テストの結果に繋がったと考えている。



問 秋のてやてや踊りは八幡浜市の伝統文化のひとつであり、競演大会自体が無くなってしまった事を知らない市民も非常に多いが、廃止になった経緯、市民への周知方法をお伺いする。

答 競演大会は、71年にわたり開催され、秋の風物詩として市民に定着しているが、近年、観客動員数や踊り手の減少、事務局の負担増大などの課題を抱えてきた事もあり、令和3.3.11に開催されたみなど祭り協賛会総会において、秋の大会を取りやめ、夏のお祭りに一本化されることになった。関係者へ文書で通知したほか、ホームページや会報等で周知した。今後、一本化した夏祭りの内容が決まり次第、改めてホームページや広報、SNSなどを通じて周知に努めたい。



問 てやてや踊り共演大会が無くなれば、今後、若い世代へ伝承していく事が難しくなってくるが、市ではどのように考えているのか。

答 一本化した後の夏祭りを魅力あるものにするための一案として、長年市民に親しまれてきたてやてや踊りを、何らかの形で組み入れる事は検討材料になると考える。てやてや踊りを残して欲しいという市民の声がある事を、市から改めて協賛会へ伝えたい。

問 市民より、昔からあるお祭りの休日開催の要望が数多く寄せられているが、休日開催は出来ないのか。

答 政教分離という憲法上の原則があり、旧八幡浜市の10月19日の秋季例大祭は八幡神社が行っている事から、日程の変更に市が関与することは出来ない。参考として、保内町川之石宮内・喜須来地区のお祭りは地元住民と神社の協議により、日程を変更し、土日開催となっている。



井上 剛議員



森林環境譲与税の活用状況は！

産業建設部長

災害の未然防止を主眼においた間伐事業を実施予定

ふるさとの森林整備について

問 八幡浜市における森林環境譲与税の使途、現況について

答 森林環境譲与税は、平成31年3月に成立した森林環境税及び森林環境譲与税に関する法律に基づき、国から地方公共団体へ令和元年度から交付されている。令和3年度における森林環境譲与税の国全体での交付額は約400億円の見込、本市への交付額は、令和元年度が769万1,000円、令和2年度が1,634万4,000円、令和3年度の見込みが1,639万4,000円で、3年間で4,042万9,000円になると見込んでいる。交付された譲与税は、これまで基金として積み立ててきたが、今年度から災害の未然防止を主眼に置いた間伐事業を実施し、その財源として活用する予定。間伐事業を代行する場合、所有者の同意が必要となるため、人工林の所有者に対する山林の経営管理に関する意向調査を開始し、所有者自ら管理することが困難な山林の把握に努めているほか、この事業の周知普及のため、モデル林として約1ヘクタールの山林を対象に間伐作業を実施している。また、これに付随して正確な衛星画像データの取得費用や現地調査に必要なモバイルGPS端末など資機材の購入費用を支援し、森林情報の管理に役立ててもらう取組も行っている。また、木育に関する施策も、関係機関と協議しながら検討したいと考えている。今



贈呈されたベンチ

月23日、愛媛県木材協会から、新しくできるフェリーターミナルビルに県産材でつくられたベンチを贈呈していただくことになった。木材のよさを広く市民へ周知することが木育の柱であり、この取組もぜひ今後の参考にしたい。森林の有する公的機能は、林業振興という側面だけではなく、地球温暖化の抑制、災害防止や国土保全、水源の涵養^{カンヨウ}など、多面的で人々に広く恩恵を与えるもの、本市においても、森林環境譲与税を効果的に活用しながら、適正な森林の整備・管理、市民への啓発などに努める。※涵養（カンヨウ）…だんだんに養い育てること。

就業人口増加定住促進について

問 新規就業者支援の環境整備についてと新規就業者への賃貸住宅の賃料一部補助は

答 新規就業者のうち農業分野の支援等として、就業サポート事業補助金制度、農業次世代人材投資事業制度、漁業分野の支援は、漁業新規就業者支援事業補助金制度がある。その他の支援策として、令和3年度から八幡浜市民間賃貸住宅整備促進補助金として、愛媛県との連携制度で平成28年以降に県外から移住してきた人が空き家バンクを通じて取得、賃貸契約した家を改修する場合に係る費用の3分の2、最大420万円を補助する移住者住宅改修支援事業もある。質問のあった民間賃貸住宅を賃借される方を対象とした家賃補助制度については、就職先を選ぶ際の動機づけ、さらに移住・定住支援につながる可能性があると思われるので、前向きに制度設計を検討したい。



佐々木加代子議員



スマホ版電子母子手帳の導入を検討いただきたい！

市民福祉部長

利用者の利便性また費用対効果を見極めながら導入に向けて検討したい

子育て支援の取り組みについて

問 平成27年度から子ども・子育て支援新制度がスタートした。目指すこととして、1.保育の受入人数拡大、2.子育て支援の充実、3.認定こども園の普及がある。認定こども園の普及については、来年度より神山幼稚園と神山保育所を統合し、新たに認定こども園に当たる「神山こども園」が設置予定である。「神山こども園」設置により、要望していた幼稚園における3歳児保育も実施されることとなり、大変嬉しく思っている。しかし、今回のこども園開設も、子どもの数の減少によるもので、今や少子化問題は自治体の最大の課題であり、難題でもある。新聞記事やニュースなどで、2020年5月から7月に妊娠届出数が急減し、コロナの影響で妊娠を先送りする人が増えていることを不安視するという報道が多くあった。当市にもコロナの影響はあるのか。コロナ前とコロナ禍における出生数の変化を伺う。

答 コロナ前の平成30年度は157人、令和元年度は162人、コロナ禍の令和2年度は149人、令和3年度は現時点での見込みで141人となり、減少傾向にある。



問 子ども・子育て新制度では、子育て支援の充実がうたわれている。八幡浜市においても妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援を実施するため令和2年1月から、八幡浜市子育て世代包括支援センター「ぽかぽか」が保健センター内に設置された。開設から2年近くが経過したセンターの利用状況と利便性がどのように改善したのかを伺う。

答 八幡浜市子育て世代包括支援センター「ぽかぽか」では、セルフプラン・支援プランの作成、オンライン相談、産後ケア訪問型、産後うつに対する取り組みを実施している。セルフプランは、母子手帳発行時に妊娠・出産、子育てに向けて必要とするサービスなどを適切に選択・利用出来るよう、妊婦と話し合いながら作成している。支援プランは、特定妊婦と要支援妊婦に当てはまる方、また、産後ケア事業利用者に作成しており、令和2年度は22件作成している。オンライン相談では、LINE相談やビデオ通話を利用したZOOM相談を実施しており、4件の相談があった。利便性の向上という点では、1.専用電話の設置やオンライン相談など、気軽に相談できる体制が出来た。2.産院に行かなくても自宅で育児相談、授乳相談ができる。3.相談内容に応じて各関係機関との連絡調整を行い、安心して必要とする様々なサービスや支援制度を利用することが出来るようになった。



問 今やほとんどの若い世代の方が利用しているスマートフォンのアプリを利用したスマホ版電子母子手帳の導入を検討いただきたいがどうか。

答 電子母子手帳は育児の記録、予防接種管理が出来ることに加えて、市独自の情報発信が可能だが、導入するアプリの機能によっては特定の人への情報発信が出来ないなど、情報発信機能の活用が限られる場合があることから、利用を停止した自治体などもある。今後、効果的な情報発信や業務の効率化が可能なアプリの検討も行い、先進自治体の状況も参考に、利用者の利便性また費用対効果を見極めながら導入に向けた検討をしていきたい。

平野良哉議員



市立八幡浜総合病院の脳神経外科・産婦人科・皮膚科に常勤医師を！

市長

愛媛大学医学部各医局に常勤医師派遣を継続要請している

市立八幡浜総合病院について

問 市立八幡浜総合病院の脳神経外科、皮膚科、産婦人科は非常勤医師であり、常時診察されていない状況であるが、今後どうする予定か。

答 脳神経外科は週2回、産婦人科は週3回、皮膚科は週2回、愛媛大学医学部からの応援医の派遣をいただき外来診療を維持している。これらの診療科の常勤医師を強く望んでおり、各医局には常勤医師の派遣について要請をしているが、医局の人員不足から、派遣には至っていない。しかし、応援医の派遣という形で協力をいただき、各教授からは、今後医局の人員が増えた場合には常勤医師の派遣をしたいとの話をいただいているので、現在の外来診療を維持しながらも、派遣について粘り強く働きかけを続けていきたい。

問 外来診療においては予約制となっているが、どのような状況か。

答 当院では、患者様が診療を受けた際に、次回の診療日時を予約していただく診療予約を行っている。

診療予約は、医師の診察がある方や各種検査がある方に対して行っており、予約枠については、診療科や医師ごとに15分から30分程度の枠内で1名から3名程度と、それぞれのドクターに応じた枠をつくっている。診療内容によっては、採血、採尿等の各種検査やレントゲン撮影などの画像撮影があるため、待ち時間が長くなることがある。また、救急患者の受入れや病棟の入院患者様の急変への対応等で、やむを得ず診察を中断、遅延することもあり、御迷惑をおかけする可能性があるが御理解をいただきたい。



ふるさと納税について

問 八幡浜市のふるさと納税は、令和2年度が納税額約11億5,000万円、件数で約10万件。3年連続、金額、件数とも愛媛県内で第1位。市政の財源として、また市の魅力を全国にPRするものとしてもなくてはならないものになっている。

それでは令和3年度の見込み増税額はいくらか。

答 コロナ禍の巣籠もり需要により、全国的に寄附額が増加していることや、年々リピーターが増えていることなどにより、今年の10月末時点において寄附額が対前年度同期比の約20%増となり、今議会において14億円とする補正予算案を上程している。



問 今後さらに納税額を増やすような戦略はあるのか。

答 ふるさと納税における全国の寄附額は、制度開始後増加の一途をたどり、年々自治体間の競争も激しくなっている。業界内において3大ポータルサイトのふるさとチョイス、さとふる、楽天ふるさと納税を開設するとともに、返礼品の提供事業者と協議しながら魅力ある特産品の充実に努めているところである。

その上で、今後のさらなる寄附額の増加を図るためには、年々多様化している寄附者ニーズに対応していくことが重要なポイントになってくると考えているので、本市のファンになってもらえるような魅力あるサイトの構築、マルチペイメント等決済方法の拡充、また継続寄附につながるような親切丁寧な対応等、これらのことを実施または強化していくことで他の自治体との差別化を図り、さらなる寄附額の増加を目指す。

宮本明裕議員



無電柱化プロジェクトについて！

市長

電柱をなくすことで、災害に強く安全・安心な街にしたい

「わくわくする八幡浜」の実現に向けて

問 無電柱化プロジェクトについて、場所、予算規模や市の負担等はどれくらいか。

答 本年3月12日、JR八幡浜駅から八幡浜港までの国道、県道約1.6キロ区間が無電柱化の整備路線として指定され、今後は道路管理者である愛媛県が主体となって整備に向け工事が行われていく。

事業費については、まだ確定してないが、国庫補助金並びに道路管理者及び各電線管理者等からの負担金を財源として整備を行うため、市の負担は特にないが、無電柱化に伴い水道管の移設等が必要となった場合は、市の負担が発生することになる。



問 四国電力跡地プロジェクトについて、現在発表できる範囲での御答弁をお願いしたい。

答 具体的な内容はこれから検討していくこととなるが、四国電力関連会社の双岩への移転後、市内中心部に利便性の高いまとまった土地ができるため、これをぜひ有効活用したい。

問 八幡浜港みらいプロジェクトについて、現在発表できる範囲での御答弁をお願いしたい。

答 八幡浜港みらいプロジェクトについては、八幡浜港と周辺エリアを広く捉え、港としての機能強化、にぎわい創出を図ることを目的としている。第1弾計画として、現フェリーターミナル跡地の活用について、市民や八幡浜港港湾整備懇談会からいただいた意見、要望を取りまとめた上で、民設民営方式による商業施設の誘致などに取り組んでいきたい。

問 愛宕山プロジェクトについて、現在発表できる範囲での御答弁をお願いしたい。

答 愛宕山プロジェクトについては、南海トラフ巨大地震による大津波から市民の命を守り、かつ被災後の早期復興につなげることを目的としている。津波からの逃げ遅れによる犠牲者をゼロにするためには、限られた時間の中で避難に支援が必要な方を車で高台へ移動させる必要があり、市街地から身近な愛宕山に緊急避難場所を整備するとともに、アクセスする既存の市道の拡幅整備等を予定している。

問 マーマレード世界大会プロジェクトについて、今後も世界大会は開催していくのか。

答 第3回となる今年の大会は、感染防止対策を徹底して実施することができた。第4回大会は来年4月に開催予定である。第4回以降もこの大会を継続開催することで、イギリスとの人的交流、文化的交流、八幡浜のかんきつのさらなるブランド化や6次産業の推進を図っていきたい。



問 二宮忠八の顕彰について、今後の二宮忠八生誕地の有効な土地利用について伺う。

答 二宮忠八翁生誕地の利用については、現在のところは何も決まっていない。二宮忠八翁は、郷土が生んだ飛行機の父であり、生誕地についても市の文化ゾーンの一画として地域の活性化につながるような利用をする必要があると考えており、二宮忠八翁顕彰協議会や市民の皆様からの御意見等を参考にしながら生誕地の利用について検討していく。

問 八幡浜の商店街の存続のために、八日市の運営について市の御協力をお願いしたい。

答 今後、八幡浜八日市委員会から支援の要望があれば、市としても開催が継続できるよう前向きに考えていきたい。

新宮 康史議員



三瓶住民の安心・安全の為に！

市長

信頼を引き継ぐ形で協議を重ねる

西予市が八幡浜施設事務組合から脱会する意向を示した件について

問 対象三瓶住民が脱会に対して、生命・財産を守ることに不安を持っており、反対している。市としてどのように対応していくつもりか。

答 今回の件については、三瓶地区住民の様々な意見がある中で、長年の懸案事項を解消するために西予市が決断したと考える。当市としては協議の中で西予市が脱会するまでの間、設立予定の協議会の中で互いの消防力低下をきたさないような形で、現在の消防力を維持できるように、そして本市消防に委ねられるように関係を築いていきたい。

要望 これからの協議をきちんと進めて、両自治体がお互いに納得した上で、地域住民が安心して西予市消防に自分たちの生命・財産を委ねられるようにお願いしたい。

大阪3歳児熱湯殺害事件を受けて

問 絶対に発生させてはならない事件であり、市の虐待に対する緊急連絡・対応体制は確立・明文化されているか。有事の際、救うべき構造が迅速にかつ具体的に起こせるようになっているか。

答 児童虐待については、子育て支援課において相談窓口を設置している。内容によっては八幡浜市要保護児童対策地域協議会において対応を検討する。

緊急時においては、この協議会の構成機関である警察や児童相談所等と連携し、必要があれば一時保護などの措置を取る。

市民の方からの通報体制については、子育て支援課に子育て・虐待電話相談室として専用ダイヤルを設置している。

また、児童相談所全国共通ダイヤル189番（いち はやく）に連絡すれば、近くの児童相談所へつながるようになっている。

提案 虐待のみならず、人権のすべての事項に渡り松山が市民に出している連絡先一覧のパンフレットを紹介する。当市でも同様のパンフレットを作成し各家庭に配布することを提案したい。真似する必要はないが、あれば緊急時悩まなくて、迅速に対応できる。

愛知、中3校内刺殺事件を繰り返さないために

問 これも絶対に発生させてはいけない事件であり、正式な原因究明はまだであるが、伝播する可能性もあり、発生防止の為、具体的に教育委員会としてどのように対処していくつもりか。

答 学校内、地域、家庭、公民館、行政、児童相談所、警察署など、様々な関係機関との迅速な対応、連携が大事であると考えている。

これらのメンバーが定期的な情報交換を行い、当市特有の三層還流方式も活用しながら、子供たちの変化を見逃さず対応していくことが、子供たちを守り育てていくことにつながる。

要望 担任の先生には、もうあと半歩自分自身のことと受け止め、生徒との絆を深める努力をお願いしたい。子供は、何かあるときには必ず信号を出す。いつもアンテナを高くして、その微小な変化を見逃さないで欲しい。



西山 一規議員



ミュージックサイレンの今後は！

市長・財政課長

可能な限り維持しホームページで発信

日本で3台となったミュージックサイレンについて

問 ミュージックサイレンの詳細と、設置までの経緯を伺う。

答 愛宕山のミュージックサイレンは、平成5年2月に1,534万7,000円をかけて設置した。それまで時報塔のサイレンにより時報を鳴らしていたが、大音量かつ暗いイメージがあり、要望により現在の機器設置に至った。ミュージックサイレンとは、空気を遠心力で圧縮し、断続的に外部に放出させることで音を発生させる装置で、ドラムの回転と窓の開閉のコントロールで音楽を演奏する。設置当初から現在に至るまで、午前6時は古賀政男氏作曲の「八幡浜漁港の歌」、正午は「みかんの花咲く丘」、午後6時は「夕焼け小焼け」の音楽を奏でており、市民の皆様が親しまれている。



点検中のミュージックサイレン

問 初代ミュージックサイレンは昭和25年登場で、伊賀市と大分市に現存する。八幡浜市のものは平成元年登場の2世代機。5年前にメーカーサポートが終了しているが、故障状況と今後の見込みを伺う。

答 設置から28年が経過しており、現在は南海放送音響照明株式会社に点検・修理を依頼している。主な故障状況は、コンプレッサー部品破損、オートドレン関連の故障、制御盤の故障、シャッター駆動の故障があった。直近では、本年10月末にコンプレッサーが故障し12月4日に復旧。既製品の改造や部品

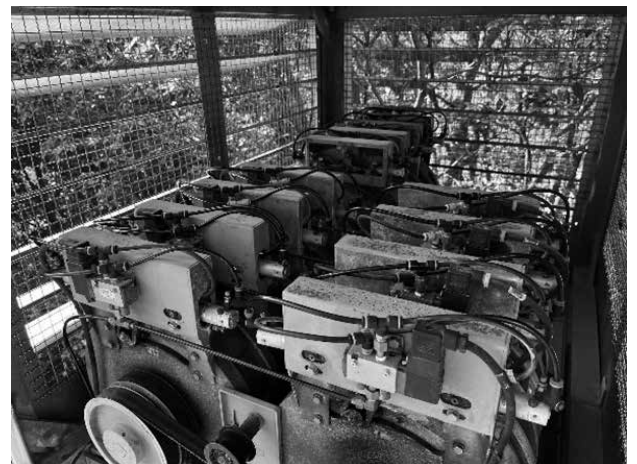
の特注により修理を行うため、長い期間を要している。来年度以降は特注部品を一定程度ストックし、停止期間が長くないよう努めながら可能な限り維持していきたい。

問 12月5日、兵庫県立篠山産業高校の先生2名がミュージックサイレンに興味を持たれ、当市まで取材に来られたことに対する市の受け止めを伺う。

答 本件以外にも訪問したいとの問い合わせがあり、直近の故障の際にはホームページで稼働状況を知らせた。故障の状況をテレビでも取り上げられるなど、注目度について関心を持っている。

問 小型の動作模型を製作・展示すれば市民の理解も深まり、観光にも活かせるのではないか。今後の取組を伺う。

答 国内で3台となったことで注目度が上がっている状況も鑑み、まずはミュージックサイレン設置の経緯や歴史、現在稼働しているか否かのリアルタイムの状況を市ホームページや公式SNS等で発信する取組から検討していきたい。今後さらに注目度が上がるようであれば、本市の観光マップ等にミュージックサイレンを掲載することも検討したい。



ミュージックサイレンの内部

遠藤 綾 議員



就学支援制度は、保護者に配慮した案内へ！

学校教育課長

保護者に分かりやすく改めていく

伊方3号機の再稼働について

問 伊方原子力発電所3号機の再稼働にあたり、当市への説明は、どのように行われたのか。

答 7月、9月に四電が来訪し、保安規定違反についての調査結果や再発防止策などの報告を受け、市として、再発防止策を徹底するよう伝えた。

問 3号機は毒性の強いMOX燃料を使用しており、プールで長期間の冷却が必要である。最終処分場も決まっていない。耐震性や避難の問題もある。市として、再稼働をやめるよう要請すべきではないか。

答 国政のより広い場面で議論をいただくことと思っている。避難計画は必要に応じて見直していく。

当市の情報の取り扱いについて

問 市民が、市の施策に関する公文書や、会議の議事録の公開を求めた場合、どのように公開するのか。

答 請求があったものは原則公開だが、情報公開条例の規定により、氏名など特定の個人が識別できる情報や、法人等の公正な利益を害するおそれのある情報は例外として公開できないことがある。昨年度、該当部分をマスキングして部分公開した事例がある。

各会議の議事録については、ホームページで、不開示情報を除き、原則、公表されることとなる。

問 自衛官の新規募集への自治体協力について、当市では、18歳の住基台帳を書き写す「閲覧」から、紙名簿での提供に変わった。市民に知らさず変わったことは問題ではないのか。経緯と法的根拠、個人情報保護条例との関連について。提供を望まない方は名簿から外す自治体もあるがどうか。

答 令和元年度の防衛大臣の法令に基づく依頼により、対象者の情報を、紙で提供している。個人情報

保護条例の9条1項2項に、法令等の規定に基づくときは提供できるとある。適切な事務執行と認識している。提供を希望しない方を外すことは、県内どこもやっていない。他市の動向を注視したい。

就学支援制度の案内等について

問 経済的に厳しい家庭の小中学生に対して、学用品費などを支援する就学支援制度について、対象者と、所得の目安を伺う。また案内書や申請書に、対象になる方や、所得の目安を例示し、表現についても、保護者に配慮した内容に変更すべきではないか。

答 就学支援制度の対象は、生活保護を受給、生活保護が停止・廃止、市民税が非課税または減免、個人事業税・固定資産税が減免、国保税が減免・徴収猶予、児童扶養手当を受給、生活福祉資金の貸付を受けている方、公共職安登録日雇労働者、その他経済的理由でお困りの方、のいずれか。

経済的理由の基準は、世帯の所得が、生活保護基準の1.3倍以下で、例えば、両親が30歳代で小学生1人の3人世帯では年収230万円以下、また両親が40歳代で小学生1人と中学生1人の4人世帯では、年収約294万円以下が対象。

今後は、所得の目安を記載するなど分かりやすく周知し、内容についても、精査し改めていく。



八幡浜市双岩駐車場

どう広報するか

八幡浜市駐車場条例の一部を改正する条例の制定について

問 駐車場の一般への募集方法は、どう広報するのか。また、仮に一般の需要が多すぎた場合はどう対応するのか。

答 一般へは、広報誌で募集を呼びかける予定である。また、これまでは、一般からの多くの問い合わせをいただいている状況ではなく、仮に希望者が多ければ抽選ということとなる。

問 一台一台の契約をするより、企業にまとめて借りていただくことはできないか。またそうしたほうが、市も事務の効率がよいのではないか。

答 現在、各企業より必要な台数は聞いてはいるが、企業も当然人事異動等々あり、今後職員の増減もあるため、一人一人と契約することを予定している。駐車料金については、口座から引き落としされる方が大勢と思われるため、それほど事務は生じないと考えてはいるが、いろいろ状況が変われば、また検討したい。

認定こども園

保育所の改修は

八幡浜市立認定こども園条例の制定について

問 今後、認定こども園として運営される現神山保育所について、現在の建物は大変古くなっており、耐震性にも不安があるが、改修の予定はあるか。

答 神山保育所の建設は昭和50年で、耐震基準の改正前に建設されていることから、早急な対応が必要であると考えている。また、神山保育所と同じく、千丈保育所および愛宕保育所についても、早急な対応が必要であると考えられるため、来年度には検討委員会を立ち上げて、3園の改修等の方針について協議していきたい。

問 神山幼稚園を閉園して、当市にとって公立では初めての認定こども園になるので、市民や利用したい保護者にも十分理解できるように、条例で分かりづらい部分については、分かりやすい規則で補ってはどうか。

答 使用する字句に注意を払い、条例を補完する分かりやすい規則を検討していきたい。

子どもの居場所確保

2団体に決定した経緯は

子どもの居場所確保緊急対策連携事業について

問 神山・川之石地区公民館の2団体に決定した経緯と、すべての公民館に事業の周知案内をしているのか。

答 神山・川之石地区公民館は、子どもが集い遊んだりできる行事等を行っている実績がある。今回は、県の予算が40万円と限られているため、ある程度絞った形で対象を決める必要があった。そのため、神山・川之石地区公民館に事業の実施を希望するか打診したところ、実施するとの回答があったことから、今回はこの2か所で実施することとなった。

問 今後、県の補助の有無にかかわらず、子どものためだけに使うということにとっても意味がある。子どもたちの状況を見ると社会教育の充実が強く求められている時代である。積極的にこのような事業に参画し、子どもたちを公民館に集めて、例えば方が一、将来、学校統廃合があっても公民館が地域の交流を担っていけるよう、この事業を継続もしくは発展させることをお願いしたい。

編集後記

新人議員として本会議を二回経験させていただきました。議会だより編集委員会も二回目です。さて、市民の皆様の声をお届けするということ、八幡浜市の今後を考えて模索することの中で、ジレンマに陥ることも実感してきました。例えば、施設整備等に係る事などに関して、今後の見通しに合わせようと思えることと、今この瞬間でのご要望を具現化すること、その両立の難しさを感じています。地方行政は国からの財政的な支援の枠が決まっている中で、予算配分など、ご要望の具現化に向けた行政措置は時間軸の調整にもなってきます。市民の皆様からのご要望は、待ったなしの状況が多い中ではあります。制約が多い中ではあります。ただ、そのような中でも、模索を重ね、歩を進めていかねばと思っています。ご拝読ありがとうございます。

井上 剛

《議会だより編集委員会》

- 委員長 佐々木 加代子
- 副委員長 井上 剛
- 委員 攝津 眞澄
- 委員 平野 良哉
- 委員 田中 繁則
- 委員 遠藤 綾
- 委員 竹内 秀明

八幡浜市議会事務局
TEL 22・5998